

【参考様式1】

令和6年度
教育課程特例校における特別の教育課程
【実施状況報告】

池田市立 神田小学校

1. 概要

池田市では平成16年3月に構造改革特別区域計画の認定を受け、「教育のまち池田」特区に取り組んできました。市立小学校全学年に「英語活動」を教科として導入（全学年年間35時間）し、平成18年度より全小学校で実施してきました。

平成20年7月より「構造改革特別区域研究開発学校」規制の特例措置が全国展開されたことにより、本市の特例認定は取り消され、文部科学省の「教育課程特例校」指定に移行し、これまでの特区内容の教育課程を継続実施しています。

平成25年度に「教育課程特例校」の実施期間の終了を迎えましたが、平成26年度以降も継続を申請し、1～4年生における「英語活動」の授業を実施しました。

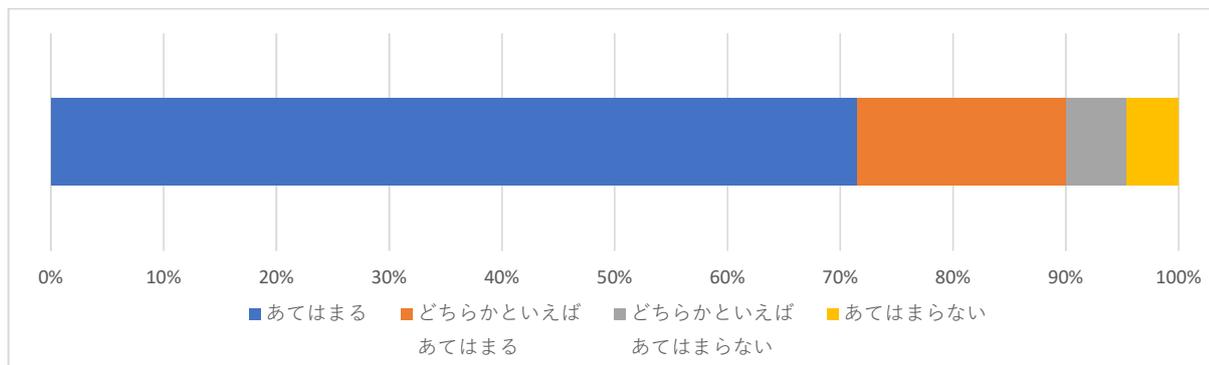
新学習指導要領への移行に伴い、「英語活動」は引き続き1・2年生で実施し、幼稚園、小・中・義務教育学校での継続的な英語学習をすすめています。

この1・2年生の「英語活動」は生活科の時間を活用して年間15時間実施しています。内容としては主に英語のリズムや音に慣れ親しむ活動を重点にし、挨拶や動作、身の回りのものを表す単語を題材にした活動を取り入れています。早期の段階から英語に触れることで、ことばや文化に対する関心を高め、正しく理解し、国際社会で生きる力を育成することをねらいとしています。中学年からの外国語活動、高学年からの外国語科への学びの連続性を意識して指導にあたっています。

2. 児童アンケートの結果

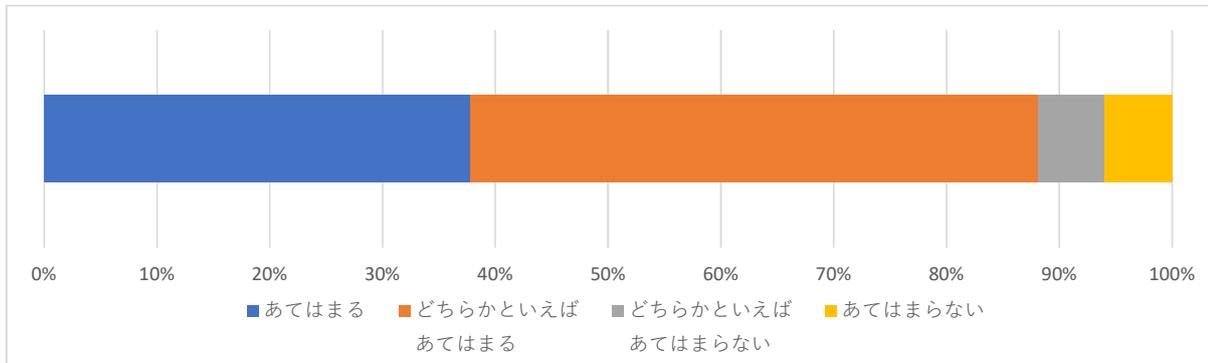
① 英語の勉強は好きだ。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
1年生	44	14	2	3
2年生	64	14	6	4
合計	108	28	8	7



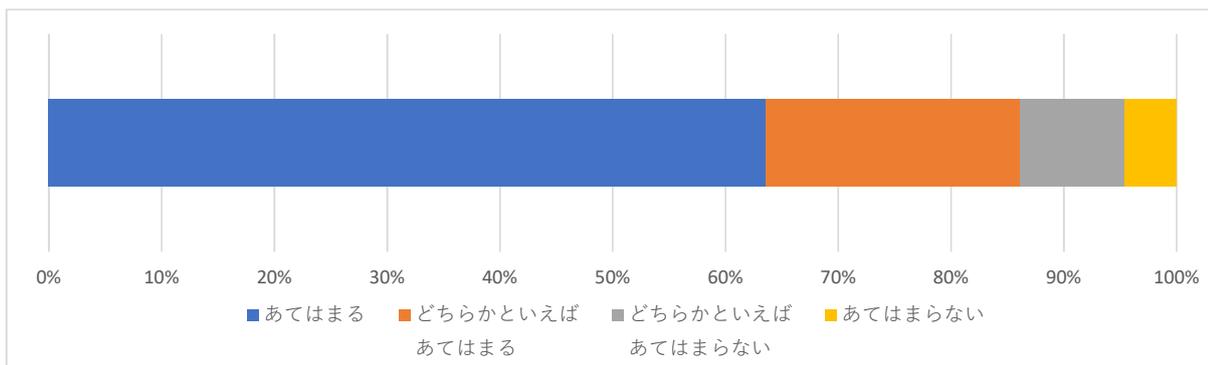
② 英語の授業はよくわかる。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
1年生	16	37	8	2
2年生	41	39	1	7
合計	57	76	9	9



③ 外国の人と英語を使って話せるようになりたい。

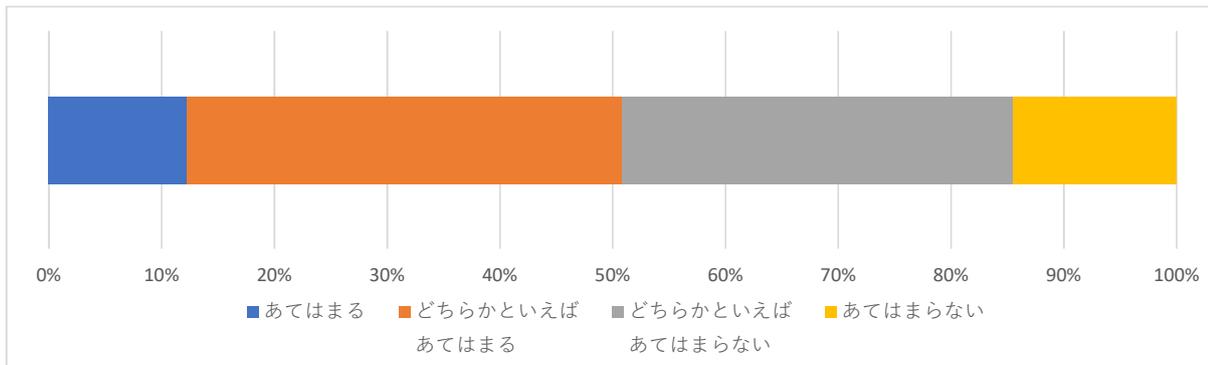
	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
1年生	47	10	5	1
2年生	49	24	9	6
合計	96	34	14	7



3. 保護者アンケートの結果

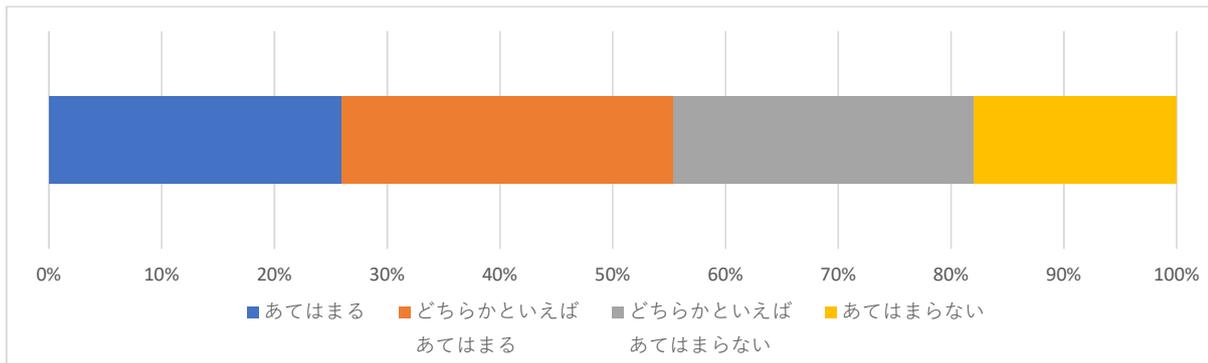
① 英語の授業を通して、お子様の英語学習に対する態度や英語を運用する知識・技能の向上を感じましたか。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
合計	32	101	91	38



② 英語の授業のことを家庭で話題にしますか

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
合計	68	77	70	47



4. 学校関係者からの意見

- ・家でも英語にふれる機会が増えていて、子どもたちは家で英単語クイズを出し合ったり、知っている単語を教え合ったりしている。低学年の子どもでも、英語に親しんでいる様子が見られ、楽しみながら自然に言葉を覚えていることに驚いている。
- ・子どもたちは、英語を話すことに対する「恥ずかしさ」がなくなってきたように感じている。ALTとのやりとりやICTを使った活動を通して、英語を「使うこと」が特別ではなくなってきたのだと思う。
- ・学校でもっと英語を使う場面があると、さらに力がつくのではないかと期待している。たとえば、英語を使いたくなるような「必然性」のある場面があると、子どもたちはより主体的に言葉を使うようになるのではないかと思う。
- ・最近、外国籍の児童も増えてきている。英語活動を通して、言語だけでなく文化にもふれられるような機会がもっとあると、多様性を受入れ、ともに学ぶ姿勢が育っていくのではないか。

5. 今後に向けて

- 1・2年生の英語活動は、年間15回実施している。毎回の授業では、単語や表現を定着させるというよりも、児童が英語に親しみ、楽しく学ぶことを大切にしている。ALTとのかわりを通して、生きた英語に触れる機会を増やすことで、英語への苦手意識をなくし興味・関心を高めたり、コミュニケーションを楽しむ姿勢を育てたりすることをねらいとしている。
- また、授業では、ICT機器を活用しながら授業内で発話する機会を増やしている。引き続き、ICT機器を効果的に活用しながら、一人ひとりが自分のペースで主体的に学習したり、英語を伝える意欲を高めたりできるようにしていきたい。